

■一般健康診断

法定健診項目（安全衛生規則第44条）

- 既往歴および業務歴の調査
- 自覚症状および他覚症状の有無の検査
- 診察、身長、腹囲、体重、視力および聴力の検査
- 胸部エックス線検査
- 血圧測定
- 貧血検査（血色素量、赤血球数）
- 肝機能検査（AST（GOT）、ALT（GPT）、 γ -GT（ γ -GTP））
- 血中脂質検査（LDL-コレステロール、HDL-コレステロール、中性脂肪）
- 血糖検査
- 尿検査（蛋白、糖）
- 心電図検査（12誘導）

※項目の省略は医師が認めた場合と一定の条件の場合のみになります。（詳細はお問い合わせください）

※聴力検査のdBは雇入時健康診断（安全衛生規則第43条）と一部異なります。

■生活習慣病健診

総合健診

- 既往歴および業務歴の調査
- 自覚症状および他覚症状の有無の検査
- 診察、身長、腹囲、体重、視力および聴力の検査
- 胸部エックス線検査および喀痰検査
- 血圧測定
- 貧血検査（血色素量、赤血球数、ヘマトクリット、白血球数）
- 肝機能検査（AST（GOT）、ALT（GPT）、 γ -GT（ γ -GTP）、LAP
T-Bil、総蛋白）
- 血中脂質検査（LDL-コレステロール、HDL-コレステロール、中性脂肪）
- 血糖検査、HbA1c
- 腎機能検査（尿素窒素、クレアチニン、尿酸）
- 膵機能検査（アミラーゼ）
- 尿検査（蛋白、糖、潜血）
- 心電図検査（12誘導）、眼底検査（両眼）
- 胃部エックス線検査、便潜血反応検査（2回法）
- 腹部超音波

<検査項目の解説>

■一般健康診断・生活習慣病健診

検査項目		単位	解 説	一般健康診断	生活習慣病健診	
計測	身長	cm	・身体各部の形態面から、身体の発達、栄養状態を把握します。	○	○	
	体重	kg	○標準体重(kg) = 身長(m) × 身長(m) × 22 ○BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m) * BMI(ボディ・マス・インデックス)とは、肥満かどうかをチェックする「体格指数」です。 * BMIの値が22前後の人が、もともと病気にかかりにくいといわれています。	○	○	
	腹囲	cm	・男性:85cm、女性:90cmを超えていると、内臓脂肪型肥満の可能性がります。	○	○	
	視力		・近視などの水晶体の屈折異常を調べます。	○	○	
	聴力		・難聴の有無などを調べます。	○	○	
呼吸器	胸部エックス線		・結核、肺の炎症性疾患、腫瘍などを発見します。	○	○	
	喀痰細胞診		・肺がんの早期発見のために有力な検査です。	○	○	
循環器	血圧	mmHg	・血圧は測定時の状態により変動します。精神的、肉体的に安定した状態で測る必要があります。	○	○	
	心電図(12誘導)		・不整脈、狭心症、心筋梗塞、心筋症や心臓肥大などの有無がわかります。	○	○	
貧血・白血球	色素量	g/dℓ	・貧血の有無を知る適切なモノサシです。	貧血があれば低下し、多血症では上昇します。貧血の診断に欠かせない検査です。	○	○
	赤血球数	万/μℓ	・全身に酸素を運ぶ働きをしています。		○	○
	ヘマトクリット値	%	・血液中に占める赤血球の割合を表したものです。		○	○
	白血球数	μℓ	・細菌による感染症や炎症がある場合に高値となります。ウイルス感染等では逆に低値になることもあります。		○	○
肝機能	AST(GOT))	IU/ℓ	・肝臓や心筋に多い酵素で、これらの臓器や組織が壊れると血液中に出てきます。急性・慢性肝炎、肝硬変、肝がん、脂肪肝や心筋梗塞などで上昇します。	○	○	
	ALT(GPT))	IU/ℓ	・肝臓に多い酵素で、肝細胞が壊れると血液中に出てきます。心筋などにも少量含まれますが、肝臓以外の影響を受けることは少ないです。急性・慢性肝炎、肝硬変、肝がん、脂肪肝などで上昇します。	○	○	
	γ-GT(γ-GTP))	IU/ℓ	・飲酒との関わりの強い酵素でありアルコール性肝炎で上昇します。このほか肝疾患、胆道疾患でも上昇します。	○	○	
	LAP	IU/ℓ	・肝疾患、肝腫瘍、胆道の病気、とくに胆汁の流れが悪くなるときに上昇します。ALPはこのほか骨疾患でも上昇します。	○	○	
	T-Bil	mg/dℓ	・肝疾患、胆道の病気、とくに胆汁の流れが悪くなるときに上昇します。このほか溶血性の病気でも上昇します。	○	○	
	総蛋白	g/dℓ	・蛋白は栄養障害や肝臓病、腎臓病等の程度を知るのに役立ちます。	○	○	
脂質	LDL-コレステロール	mg/dℓ	・HDLコレステロールの反対で悪玉コレステロールともいわれ、過食、高脂肪食、運動不足などで上昇します。 ・値を求める方法として、直接法と計算法(フリードワルド式)があります。中性脂肪が400mg/dℓ未満の場合、どちらの方法を用いても、値はほぼ同じになります。	○	○	
	HDL-コレステロール	mg/dℓ	・動脈硬化を予防する善玉コレステロールともいわれ、肥満、運動不足、喫煙、糖尿病などで低下します。	○	○	
	中性脂肪	mg/dℓ	・脂質、糖質、アルコール等の摂りすぎや、肝臓、胆道疾患で上昇します。	○	○	

検査項目		単位	解 説	一般健康診断	生活習慣病健診	
糖尿病	空腹時血糖	mg/dl	<ul style="list-style-type: none"> いずれも糖尿病の有無を調べる検査であり、尿糖は尿中に糖が出ていないかを調べ、血糖は血液中のブドウ糖の量を調べる検査です。血糖値は肥満、運動不足、ストレス、胃切除などで異常に出ることがあります。HbA1cは過去約2ヶ月間の平均的な血糖値を推定できる検査であり、食事の有無に左右されません。 ※HbA1cは平成25年4月から従来のJDS(日本糖尿病学会)値よりNGSP(国際基準)値に変更となりましたので、ご注意ください。 	○	○	
	随時血糖	mg/dl		○	○	
	HbA1c	%				○
	尿 糖			○	○	
腎機能	尿蛋白		<ul style="list-style-type: none"> 尿中に排泄される蛋白を調べることで、腎臓疾患、尿路疾患などの有無がわかります。 	○	○	
	尿素窒素	mg/dl	<ul style="list-style-type: none"> 体内の蛋白質の最終産物ですが、腎臓病、脱水、蛋白質の摂りすぎで高値になります。 		○	
	尿潜血		<ul style="list-style-type: none"> 尿中に血液が排泄されるときは、尿路の炎症(腎炎、膀胱炎、尿道炎等)や結石症、腫瘍などの病気が考えられます。 		○	
	クレアチニン	mg/dl	<ul style="list-style-type: none"> 筋肉のなかのクレアチンリン酸の最終産物であり通常尿中に排泄されますが、腎機能が低下してくると血中のクレアチニン値が増加します。 		○	
	尿酸	mg/dl	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の核の成分の代謝産物です。肉類、アルコール、カロリーの摂りすぎや腎臓が働かないときに高値になり、痛風の原因になります。 		○	
脾機能	血清アマラーゼ		<ul style="list-style-type: none"> 膵臓、唾液腺から分泌される消化酵素で膵臓や唾液腺に炎症が起こると上昇します。 		○	
消化器	胃部エックス線		<ul style="list-style-type: none"> 食道、胃、十二指腸までの消化管を造影剤によりX線撮影します。形態や粘膜のただれ、潰瘍、ポリープ、がんなどを診断します。 		○	
	腹部超音波		<ul style="list-style-type: none"> 超音波を利用して音の反射から肝臓、腎臓、胆嚢、膵臓、脾臓の病気を画像診断します。ただし、体格や消化管ガスの影響により観察ができない箇所がある場合、描出困難と判定されることがあります。 		○	
	便潜血		<ul style="list-style-type: none"> 便に含まれる血液を検出するもので、主に大腸がんの早期発見に役立ちます。 		○	
眼底	眼 底		<ul style="list-style-type: none"> 網膜の血管を観察することで動脈硬化や高血圧による変化をみます。また、糖尿病による血管障害の有無を調べることができます。 		○	